

## 『絶えず、しきりに』 エレミヤ書25章 1～13節 2015.5.17(日)主日礼拝より

『…あなたを形造った方、主はこう仰せられる。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。…わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。』  
イザヤ書 43:1、4

◆エレミヤは、ヨシヤ王の第 13 年から 23 年間(BC627～604)、民に悔改めを語り続けた。神の救いと人の神への背きは、誰もが確認できる歴史的事実！その代表的な出来事が『バビロン捕囚』である。

◆バビロン(ヘブル語読み『バーベル』)とは「バベル」のこと！それは、地上で最初の権力者ニムロデが建てた町の名(創世 10 章)であり、そこで人々は、傲慢にも神に対抗する高い塔を建て始めた(創世 11 章)。神は、当時1つだった世界共通の言葉を乱し、互いに意思疎通が出来ないようにした。コミュニケーション障害は、神を神とも思わず、人を人とも思わない高慢な自己中心から生じる。今、世界にある 6900 もの言語のうち、まだ手付かずで、これから聖書翻訳予定なのは約 2000(該当人口約2億人)！である。『全世界に福音が述べ伝えられてから終わりが来る(マタイ 24:14)』。バラバラにされた人々の心が、ひとつにされる時が来る！

◆神に立ち返らなかった民は裁かれ、70 年間捕囚の民となる！それは一生をかけて償うほど、とりかえしがつかない厳しいものであり、同時に必ず終わり(解放)が来るという憐れみの期限でもあった！それはヨシヤ王の死(BC609 年)からペルシャ王クロスの解放令(BC539 年)までの、ぴったり 70 年であった！神の約束は必ず実現する。

◆私たちは神の憐れみによって救われるが、それは「自動的」ではない。神の愛も、その救いの恵みも、全てが無条件・無代価の贈り物だが、受け取るには、たったひとつの手続きが要る！それは私たちが神の呼びかけ、悔改めを指摘して導こうとされる救いへの御声を聞いて、そちらに向く(悔改める)こと。

◆ルカ 15 章の放蕩息子は、父の家を捨て、落ちぶれ、初めて自分の愚かさや父の愛の深さを知った。そして、立って家に向かい、決心して父の愛に立ち戻り、悔改めた。これが「信仰のゼロ視点」である。上から伸ばされた神の救いの手と、下から伸ばした私たちの救いを求める手が触れて、神と出会う！◆使徒2章で、ペテロが民の罪を指摘した時、人々は『そんなの知るか！俺たちと関係ない！』と言わなかった。聖霊によって諭され、『私たちはどうしたら良いでしょう』と罪を悔いて神に立ち返った。

◆「見ざる・聞かざる・言わざる」の3重の罪深さを悔改め、ヘレンケラーのように、心の目を開かれ、魂で御声を聞き、人生を委ねて応答して祈り、人々に希望の光を照らす人になりたい。神は、絶えず、しきりにあなたへ愛を語り続けておられる(イザヤ 43:1、4)！